

都市環境学部・都市環境科学研究科からの報告

都市環境学部ダイバーシティ推進WG委員長
都市環境科学研究科 観光科学域 教授 東 秀紀



都市環境学部・都市環境科学研究科（以下：「当学部・研究科」と略）では、昨年度「都市環境学部・都市環境科学研究科ダイバーシティ推進行動計画」（以下「推進行動計画」と略）を作成し、携わった教員を中心に、今年度4月から学部長直属で「ダイバーシティ推進ワーキング・グループ」を発足させている。

メンバーとして各コース・学域から1～2名が参加し、現在は総勢8名（男女とも4名ずつの同数）、昨年度の「推進行動計画」を具体化するための検討・実施を行なうことなどが目的である。

当学部・研究科のダイバーシティへの取り組みは、主に以下の3点に要約されるが、実績や今後の予定などに触れながら説明していこう。

最初に、女性研究者の裾野拡大の観点から、学部・学域の女子大学生・院生数の増大への取り組みがある。昨今わが国では学生や受験生の理系離れや大学院進学者の減少などがみられるが、世界に活躍する女性研究者を増やすべく、学問・研究の意義や楽しさを教える啓蒙的で、且つレベルの高い教育や広報を積極的に行なっていくことが望まれる。

オープンキャンパスにおいて、ダイバーシティ推進ワーキング・グループに属する女性教員が中心となり、都市基盤環境学域、都市システム科学域、分子応用化学域、観光科学域の合計4名の女子院生が自分の研究を発表する「サイエンス・カフェ」を開催する予定である（8月18日、於：南大沢キャンパス）。

また、東京理系女子探検隊プロジェクトの一環として、科学の楽しさを体験するサイエンス・ワークショップには「私も気象予報士―天気図を描く」をテーマに、地理環境科学域の女子院生が参加することになっている（9月22日、於：サイエンスドーム八王子）。

次に、積極的な女性研究者の採用・確保がある。

当学部・研究科では、公募の際、女性の応募を積極的に歓迎しており、複数の候補者の力量が同程度ならば、女性研究者を優先採用することを申し合わせている。

今年度は、既に地理環境科学域の女性助教採用を決定した。

もっとも、最近では女性研究者に対するニーズが多く、専門分野等の点で公募に馴染まない女性教員の採用に際しては、指名人事制度などを活用していく検討も必要だろう。

最後に、そして最も重要なこととして、女性研究者が大学で働くための総合的な環境の整備がある。女性は男性よりも、結婚・出産・育児・親の介護等、ライフコース上の変化によってキャリア形成上の影響を受けやすい。そうしたなかで、女性が研究と家庭を両立させるための環境を整備することが、現在の大学にとって必要である。

たとえば、学内保育所の設置などは、保育科や病院のない大学などでも整備の動きが加速化しつつある。実現には費用や法制度など、さまざまな障壁があるが、アウトソーシングや費用補助などを含め、他大学はさまざまな知恵を出して取り組んでおり、首都大学東京でも喫緊の課題である。

当学部・研究科からは、全学的な「保育環境整備検討ワーキング・グループ」に、建築の専門家として建築学域の教員が参加し、こうした障壁の解決に取り組んでいる。

以上、当学部・研究科の取り組みについて述べてきたが、ダイバーシティ推進ワーキング・グループは発足して3ヶ月しかたつておらず（執筆時点）、活動も未だ緒についたばかりである。平成25年度末までに、環境改善のための方策として、学部ホームページ等女子受験志望者向けのツールによる情報発信、女子大学生、院生向け講義「キャリアパス」の検討、シンポジウム開催などを行なう予定であるが、全学の推進委員会、推進室でも同種のことを企画・検討されていると聞く。そうしたものに関しては協力・連携しながら、今後わたしたちの行動を進化し、展開させていきたいと考えているところである。

今後の予定

「人・知・街」を探検する！
東京理系女子探検隊プロジェクト 2012

- ★サイエンスカフェ
首都大学東京大学説明会 連携イベント
「女子中高生サイエンスカフェ」開催
7月28日（土）日野キャンパス
8月4日（土）荒川キャンパス
8月18日（土）南大沢キャンパス



- ★サイエンスワークショップ
①「折り紙から始まる数学」8月19日（日）
会場：東京都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス
②「デコテクネックレスを作ろう」「私も気象予報士―天気図を描く」
9月22日（土・祝）会場：サイエンスドーム八王子（こども科学館）
③「女子中高生対象イベント」開催予定

★会社見学会【京王電鉄】 8月29日（水）
詳細は「東京理系女子探検隊プロジェクト」HPをご覧ください。
<http://www.comp.tmu.ac.jp/diversity/girl/>

※首都大学東京都市環境学部では、7月～11月に「2012年度高校生のためのオープンクラス」を各コースで開催します。
詳細は首都大学東京都市環境学部HPをご覧ください。
<http://www.ues.tmu.ac.jp/>

◆10月1日「ダイバーシティ推進室」の移転

ダイバーシティ推進室は、10月1日（月）に図書館本館1階に移転、リニューアル・オープンする予定です。プライバシーに配慮した相談室も併設します。9月下旬の移転直前はご不便をおかけすることがあるかと思いますが、ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

◆10月「第2回バリアフリー講習会」を開催予定

5月の聴覚障がいのある人への情報保障、ノートイクの基礎を学ぶに続いて、別のテーマで講習会を開催する予定です。確定しましたら、ホームページ上でお知らせしますので、更新情報をご確認ください。

◆11月「ダイバーシティ推進室フォーラム」を開催予定

本学の構成員が多様な働き方を実現できる勤務制度を設計するために、首都大にふさわしいワーク・ライフ・バランス施策について考えたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

首都大学東京 ダイバーシティ推進室

〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1 2号館 206号室

電話：042-677-1111（内線 1943） FAX：042-677-1153

E-Mail：diverwww@tmu.ac.jp

URL：http://www.comp.tmu.ac.jp/diversity/

発行日：平成24年7月31日

編集・発行

編集
後記

ダイバーシティ推進室では、「ダイバーシティ推進室」「女性研究者研究活動支援」「東京理系女子探検隊プロジェクト」の3つのWEBサイトから、イベントの詳細や活動報告など様々な情報を発信しております。ぜひ、「首都大学東京 ダイバーシティ推進室」と検索してみてください！

No. 3 July 2012 Newsletter ダイバーシティ通信

首都大学東京
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

ワーク・ライフ・バランスとダイバーシティ



7/10開催「ワーク・ライフ・バランスカフェー生活時間を見直そう！」にてアクションプランシートに生活時間を記入します。

ワーク・ライフ・バランス相談員に聞く ■

ワーク・ライフ・バランスとは？

この頃は少し耳慣れた言葉かもしれませんね。「ワーク・ライフ・バランス」は「仕事と生活の調和」という言葉で紹介されます。現在の日本では、共働き世帯が増加し、ライフスタイルが多様化する中で、一人ひとりが多様な働き方・生き方を選択でき、個々人の能力を十分に発揮できる社会の実現が求められています。他方で、少子高齢化が進み、人口減少社会となった日本では、女性や高齢者など多様な人材が働き続ける環境の整備が不可欠となっています。そこで、2007年に国は「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章・行動指針」を制定し、官民一体となって「ワーク・ライフ・バランス」の実現に取り組んでいます。

「ワーク・ライフ・バランス」というと、すぐに出産、子育てで仕事を中断せざるをえない女性のための子育て支援の取り組みを思い浮かべる人が多いかもしれませんが、事実、多くの企業が「ワーク・ライフ・バランス」の主要な施策として位置づけているのは子育て支援です。

しかし、「ワーク・ライフ・バランス」とは本来、一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働くとともに、家庭生活や地域活動を大切に、また長い人生の中の「子育て期」や「中高年期」など、どの時期でも多様な働き方・生き方が実現できることを意味しています。ですから、「ワーク・ライフ・バランス」は、首都大学東京が掲げている、多様性の尊重という「ダイバーシティ」の理念を実現していくためには必要不可欠な取り組みといえるでしょう。

大学でのワーク・ライフ・バランスを実現するためには？

大学は教職員や学生など教育・研究、職務、学習や課外活動などそれぞれに異なる業務、達成課題を持っている人びとで構成されており、その属性はそもそも多様です。また教職員には正規教職員だけでなくさまざまな雇用区分もあり、それだけにそれぞれの構成員が満足して仕事や研究を進めていくためには何が必要で、何が問題なのかを考えていく必要があります。

ダイバーシティ推進室が、2012年1月に実施した「ワーク・ライフ・バランスに関するニーズ調査」では、首都大の教職員のみなさんの「ワーク・ライフ・バランス満足度」

について聞いています。全体の回答結果では、「現状のままでよい」が41.3%、「もっと仕事のための時間を確保したい」が14.9%、「もっと家庭生活のための時間を確保したい」が38.3%でしたが、男女別、教職員別に結果をみていくと、違いが見えてきます。

男性（n=164）では「現状のままでよい」（47.6%）との評価が多いのに対し、女性（n=138）では「現状のままでよい」（34.1%）との回答は低く、女性の方が現状に満足できていない状況がうかがえます。教職員別にみると、教員（n=165）は「もっと仕事のための時間を確保したい」（20.0%）という声が多く、職員は「もっと家庭生活のための時間を確保したい」（42.5%）が多いという結果になっています。

こうした違いがどのようなところから生じているのか、きめ細かく実態を把握しながらニーズに対応していくことが必要だと思えます。

首都大学東京のワーク・ライフ・バランス相談員として

私は、今年の4月からダイバーシティ推進室のワーク・ライフ・バランス相談員として勤務することになりました。毎週火曜日、10時から17時まで、個人面談または電話でワーク・ライフ・バランスに関するご相談をお受けしています。また、6月から毎月第一火曜日に、ワーク・ライフ・バランスについて語り合うワーク・ライフ・バランスカフェも開催しています。

ワーク・ライフ・バランスの実現は、いわば将来の社会に投資する取り組みです。私はみなさんからのご相談や、ワーク・ライフ・バランスカフェでお話を聞かせていただいたことをしっかり受け止め、この首都大ではどのようなことが問題になっているのか、どのようなニーズがあるのかをダイバーシティ推進室につなげていくことで、首都大のワーク・ライフ・バランス実現の一翼になりたいと思っています。

※相談のご案内は「ダイバーシティ推進室」HPをご覧ください。

ワーク・ライフ・バランス相談員
荻野 令子



